



「柔道を通して地域に役立ちたい」と始めた柔道少年団の指導は21年目。教え子たちは今や町を担う中堅として活躍しています。農作業の連続から来る体の節々の痛み緩和に応えて、整骨院も開業25年の四半世紀を迎えました。遠く上川、富良野からも患者さんが通院してきます。その施設、柔道の熱血指導は、これからも続きます。



「柔塾」の練習場は、B&G海洋センターの2階道場。月曜日、木曜日の夜、小・中学生が練習する掛け声が場内に響きます。

「なにやつてるんだ!」「腰引くな、腰!」「足折るぞ、足!」「そんな柔道、絶対するな!」。大声が道場に終始響き渡ります。

「若いころは精神論で『根性、根性』でやってた。親を怒鳴りつけることもあったなあ。でも最近はその年の大会でただ一人に与えられる最優秀選手名誉会長賞を受賞しました。」

「うれしかった!」。柔塾の指導は今、3段の長女雅美(ともみ)さん(25)と二人三脚になりました。4歳から柔道を始めて金沢市内の高校に柔道進学、全日本選手権大会出場まで果たしたほどの実力者。北信越柔整専門学校(金沢)を卒業後、現役選手を引退して帰郷、父克広さんを手伝って、今や佐藤整骨院の看板娘です。



北整全道柔道大会(小樽)の個人50代の部で優勝。全国大会(10月10日、東京・講道館)に出場します。全国大会は各年代優勝者5人でチー

ムを組んで戦う団体戦。昨年は1回戦敗退の残念な結果でしたが、今年は果たして?

「去年は何十年に一度か、という旭川大会だったのでプレッシャーが大きかったなあ。教え子もみんな見ているし...と思うとね。勝ててよかったよ。」

今年の大会では気持ちも楽に戦えたそうです。そしてすべて一本勝ち。その年の大会でただ一人に与えられる最優秀選手名誉会長賞を受賞しました。

「歩行器に入れて、施術台の脚にひもで縛ってあやしていた子が、まさか帰ってきて一緒にやるとは...」と話す口元が優しくほころびました。

自宅裏庭には個人レッスンもできる手づくりの畳敷きテントもあります

開業25周年を迎えた佐藤整骨院



毎週月、木の2回行っている柔塾の練習(B&G海洋センター)

さとう かつひろ 佐藤 克広さん/北町3/☎82-4379

士別市出身、52歳。東北柔道専門学校卒(現仙台接骨医療専門学校)。柔道6段。佐藤整骨院経営、柔道整復師。東川柔道スポーツ少年団「柔塾」指導者。第34回北整全道柔道大会(日整全国柔道大会北海道予選大会、今年8月7日、小樽市総合体育館)で2年連続の優勝。第35回日整全国柔道大会(10月10日、東京・講道館)に北海道代表選手(50代)として出場権を獲得。